

第4学年 社会科の実践

1 単元名 「地域で受け継がれてきたもの」 (全10時間 本時8時間目)

2 単元目標

単元目標

○地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。

○地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。

○地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題 「解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ・・・「追究する力、仲間と支え合う自分」

- ・自分の問題をとことん追究する姿
- ・仲間と協働して追究する姿

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

お互いに自分の意見が言えるように、生活班での話し合いやグループ活動をなるべく多く取り入れている。特に社会科では、神奈川県白地図に特徴を書き入れる活動や三の丸小学校から避難ルートを考える活動などを取り入れることで、自然とかかわり合いながら活動を進めていくことができている。意見交換の場では、毎回話し合いのリーダーを決めて、リーダーを中心に話し合いを進めることで、一人一人が話して終わりではなく、その後に質問やさらに話し合いを深める時間を設けることができてきた。多様な意見を取り入れたい場合には、なるべく多くの人と意見交換をしたり、自分とは違う意見の人を見つけて話し合ったりする時間を設けている。その際も聞いて終わりではなく、そう考えた理由や自分の意見と比べて話し合うように指導をしている。

全体共有の時間では、「リレー言葉」を意識して全体の話し合いを進めてきた。「リレー言葉」とは、「〇〇さんと同じで」、「〇〇さんと違って」、「〇〇さんに付け加えると」など立場を明確にして子どもたち同士で意見をつなげていく話型を示すことで、相手の意見を聴く必要性和スムーズな話し合いを進めることができるものである。少しずつ意見をつなげる意識ができていているが、同じ意見の児童ばかりを指してしまったり、後半には同じ児童がずっと話してしまったりすることもあるので、教師が軌道修正をする必要がある。児童が意見をつなげて話し合いを進め、教師はこの話型を提示してファシリテーターに徹することで、児童自身が中心となって問題や課題を解決していけるような姿を目指す。

4 単元と指導

〈単元について〉

本単元では、県内の伝統や文化、先人の働きについて、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の願いが込められていることを理解し、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の伝統や文化、先人の働きの様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現する力を身に付けることを目指す。

「地域に受けつがれてきたもの」として昭和59年に経済産業大臣指定の伝統工芸品に指定された「箱根寄木細工」について考える。普段身近に見る箱根寄木細工だが、その歴史には高度な技術が受けつがれてきたこと、箱根山の多様な木の種類を生かしてきたということを理解することで、箱根寄木細工を受けついできた人々の努力や工夫に気付くことをねらいにしている。また、東海道や小田原の宿場のにぎわいからみやげ品として盛んになったこと、箱根の資材と土地柄を生かして栄えたことにも気付かせたい。

〈指導について〉

単元の導入では、「昔から受け継がれてきたものはどんなものがあるだろう？」と児童に問うと、地域の受け継がれてきたものに目を向けて考えるだろう。始めは、寄木細工や小田原漆器、北条五代祭り、和菓子といったものが挙げられると予想される。話し合ううちに、自分たちが思っているより身の回りにより多くの伝統や文化が根付いていることに気付く。その中から一つのテーマに絞る時に、「北条五代祭りってどのくらい続いているの？」「寄木細工は箱根が発祥なのかな？」などの疑問が浮かぶだろう。ある程度調べる時間を設け、歴史や受け継がれてきた過程について知った上でテーマを選ぶことができると考える。

次に絞られた「箱根寄木細工」について、どんなことを知りたいか生活班で考えていく。その際に、アイデアを広げやすいように、各班にウェビングマップの紙を渡して、少しずつ関連させながら調べたいことを見つけていく。調べたいことを中心に教科書や資料集、インターネットなどで調べる。その中で、寄木細工の繊細な模様作りが大変難しいことやその技術を身に付けるためには長い時間を要することを知り、職人の努力や苦勞を知るだろう。そして、なぜ寄木細工の職人が少ないのかという疑問は、どうしたらもっと寄木細工について知ってもらえるだろうという課題となっていくだろう。

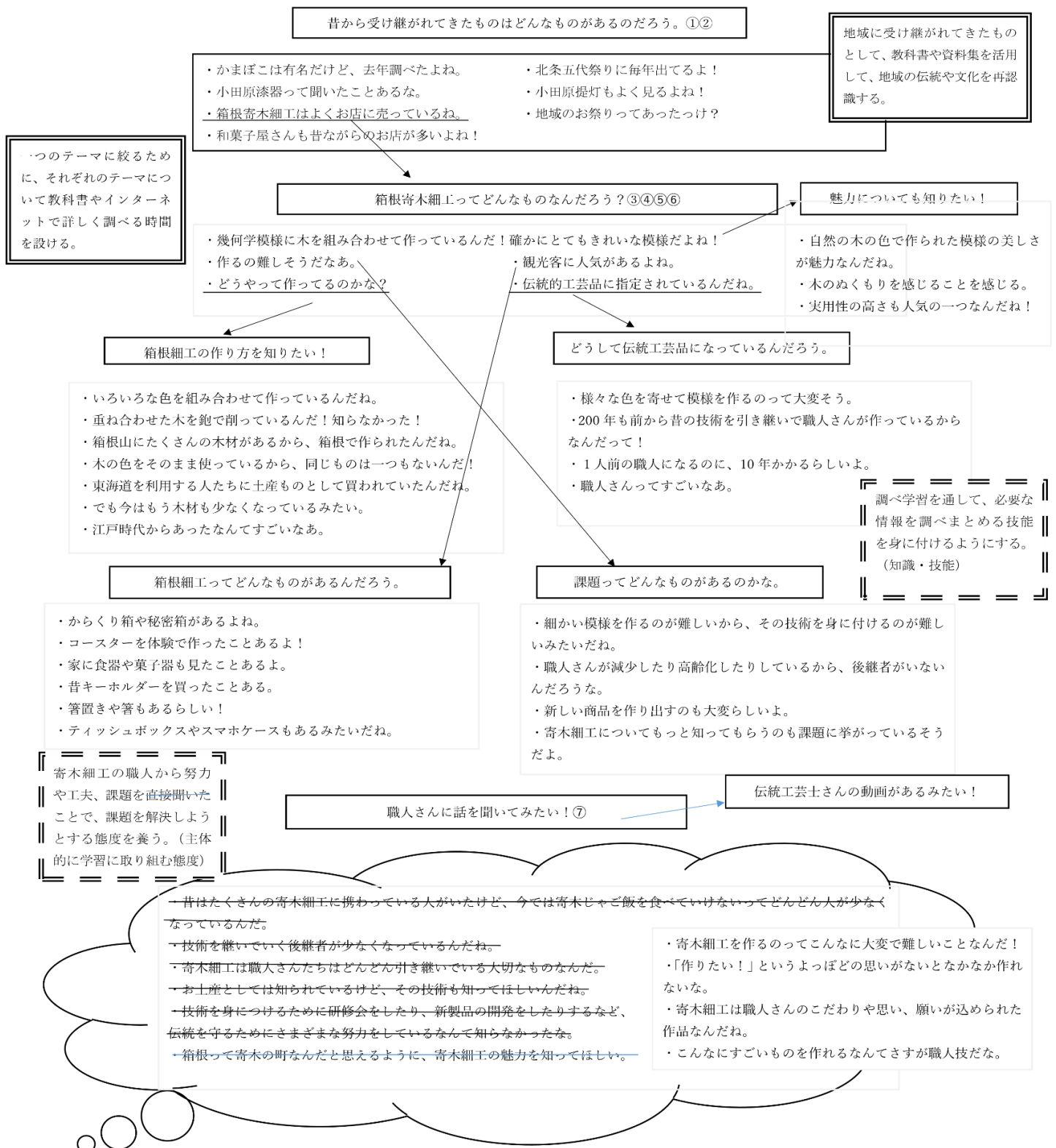
詳しく調べた後で、実際に寄木細工の職人に話を聞きたいという声が上がると予想される。実際に職人の努力や工夫、課題といった生の声を聞くことで、寄木細工の伝統や技術を継承してきた人々の願いや努力をより理解し、課題を解決したいという気持ちが強まると考えられる。

そこで、「箱根寄木細工を守るために、自分たちにできることはなんだろう。」という話し合いのテーマになっていくだろう。「箱根寄木細工を守ること」を軸にして、自分たちにできることについて考えを短冊にした紙に書く。自分の考えに自信を持たせたり、他の意見と比べたりするために、近くの席の子たちと意見交換をする。全体共有の場では、その短冊を板書に貼ることで可視化をしながら意見をつなげていく。「リレー言葉」を用いて、「〇〇班と同じで」、「〇〇班に付け加えると」など前者の意見につないで子どもたち同士で話し合いを進め、教師はファシリテーターとなり話し合いの軸が逸れたら軌道修正する役目に徹することで、児童自身で課題解決しようとする力を身に付けさせたい。本時では、これまで調べたことや聞いたことをもとに課題を見出し、自分たちにできることはなんだろうと話し合う姿をひびき合いの姿とする。

5 単元構想 4年社会科「地域で受け継がれてきたもの」(8/10)

単元目標

- 地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- 地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。



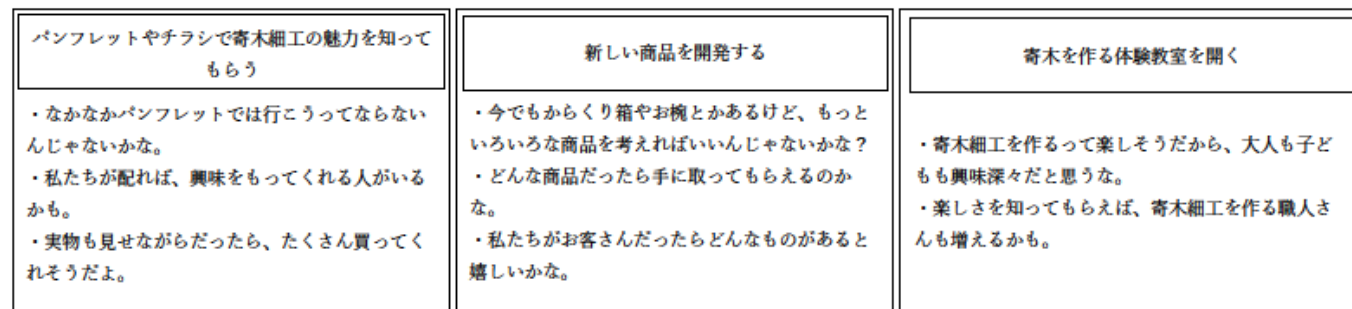
寄木細工に関わる人の工夫や努力から、自分の意見を表現することができる。(思考・表現・判断)



箱根細工の魅力を知ってもらうためにどうしたらよいのだろう。⑧

箱根寄木細工を守るために、自分たちにできることはなんだろう。⑨ (本時)

これまで調べた寄木細工の課題などをまとめたものを視覚化できるように掲示しておく。



わたしたちができることは何だろう。⑩

・みんなに箱根細工の魅力を知ってもらえるように、私たちが何かしたいな！
 ・寄木細工の工房やお店の人に掛け合ってみようよ。
 ・どうすれば一番いいか相談して、実際に私たちが手助けできたらいいな。

6 本時について

- (1) 本時目標 これまで調べたことをもとに、箱根寄木細工を守るために自分たちにできることはなんだろうと話し合うことができる。
 (2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点 ◇評価【観点】
箱根寄木細工を守るために自分たちにできることはなんだろう。 よさを伝える みりょくを知ってもらう 何年も修行した職人の技 チラシをはる 木のぬくもりや自然の木の色 職人の思いを知る 工夫や努力を職人に聞く 職人の寄木細工への思いを聞く 商品の開発 新しい商品を開発する 子どもでも買いやすいもの 体験してもらう 寄木細工を体験する 大変さや努力を知ってもらう 箱根寄木細工を守るために自分たちにできることはなんだろう。	○ 調べて分かったことや話を聞いて知ったことなどを模造紙でまとめたものを用意しておく。 ★教師の出どころ 生活班での話し合いで、聞き手はそう考えた理由や詳しく深堀する質問をするように声掛けをする。 ○ 自分の考えを書いた紙を貼ることで、可視化しながら意見を整理することができる。 ○ 「リレー言葉」を用いることで、立場を明確にし、考えをつなぎながら話し合いを進めるようにする。 ★教師の出どころ 話し合いの軸が逸れたときに、今日のめあてに立ち返って軌道修正する。 ◇ 寄木細工の良さや魅力、関わる人の思いから、自分の意見を表現することができる。(思考・表現・判断)

7 実践を終えて

(1) 子どもとどのような単元を作ってきたのか。

子どもたちと寄木細工について調べていく中で、寄木細工の歴史や魅力、課題が挙がってきた。寄木細工は江戸時代からずっと引き継がれてきていること、10年以上修行が必要なほど高度な技術が求められていること、箱根の多様な木を組み合わせることで木の良さを引き出していることなどの魅力を知るとともに、職人の高齢化・減少に伴って後継者不足も深刻であることにも気付いた。「箱根細工を守るために自分たちにできることはなんだろう」と課題に向き合い、職人の思いや寄木細工の良さについて多くの人に伝えていきたいと話し合うことができた。

(2) 成果と課題

○板書でのグルーピング

普段から板書で同じ意見をまとめることを意識して貼っているのので、めあてからぶれずに話し合いを進めることができた。自分がどの意見に近いのか、同じ意見でも理由は少し違うなど、自分と友達の意見を相違点に着目しながら話し合いができた児童が多い。

○△短冊を使って意思表示

事前に自分の考えを短冊に書き、教師が机間巡視をしながら問い返しを行った。問いに立ち返らせて考えの根拠を再考させることで、より自分の意見を強化する児童もいたので、本時では理由も含めて発言することができたと考える。短冊を使うことで自分の意見が言いづらい児童でも参加できる良さがある一方、同じ意見だからと発言する機会が減ってしまった。同じ意見でもどのような理由でそう考えたのかを掘り下げて聞くと、児童の考えや思いをもっと引き出せただろう。

○模造紙・パンフレット

箱根寄木細工で調べたことをノートに記録し、見返しやすいように模造紙にまとめたことで、話し合いをする際にどんな特徴があったか、どんな課題があったかに立ち返ることができた。また、ノートや模造紙をもとにパンフレットにまとめた。パンフレットの特徴や見せ方について全体共有をし、読み手が読みやすいように書くことを意識した。

△「守る」というキーワード

箱根細工を「守る」という言葉は児童の発言から広げたものだが、「守る」というキーワードが児童の発想を狭めてしまったのではないかと考える。箱根細工を「残す」について考えると、もっと多様な意見が出たのではないかと考える。

